みどりの里

宇奈月小学校だより
第７号
令和元年９月27日

目指す子供像　うんとかんがえる子　なかよくする子　つよいからだの子　きれいなこころの子

黒部市立宇奈月小学校　〒938-0862　黒部市宇奈月町浦山205番地１
TEL(0765)65-2288　FAX(0765)65-2800
URL　http://www.tym.ed.jp/sc13/
E-mail　unazuki-es@tym.ed.jp

全国学力・学習状況調査の分析結果より
～・～ 子供たちに確かな学力を ～・～

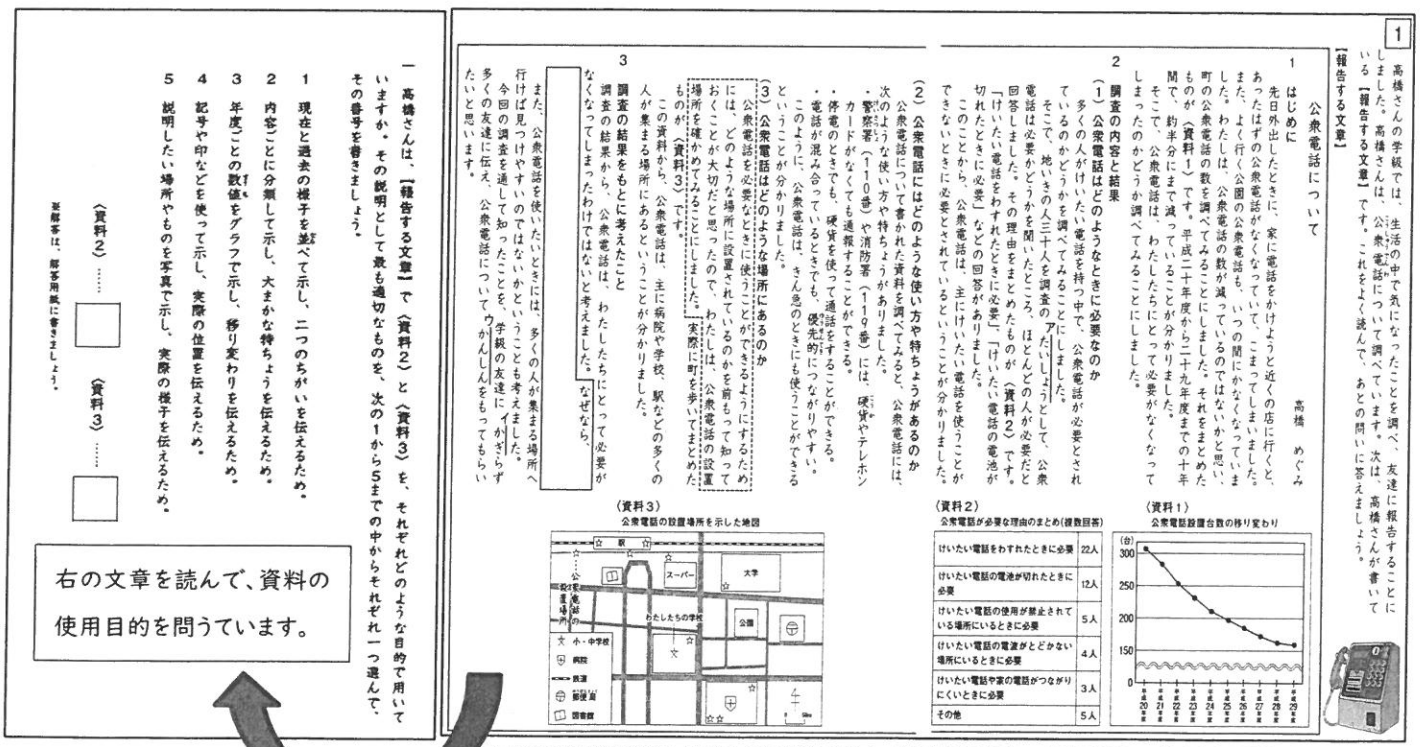
教務主任 城寺 賢二

4月18日に「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」が行われました。この調査は国語科、算数科の問題と、生活習慣・学習環境等に関する質問から構成されています。今回の調査結果を基に、本校における児童の学習面と生活面についての成果と課題、そして、今後の取組等についてお知らせいたします。

１ 本校の学力・学習状況について

①国語科について

文章の内容を的確に押さえて読んだり、文章全体を概観して効果的に読んだりできることが分かりました。また、話し手の意図を捉え、自分の意見と対比しながら聞くことも身に付いてきています。これは日頃の授業の中で、自分の考えの根拠となる叙述に線を引いて考える場面や相手が伝えたいことを想像しながら聞いたり、自分の考えと比較しながら聞いたりする場面を意図的に多く取り入れてきた成果と考えられます。一方で資料の使用目的の意図を捉えることや、目的に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られました。(下の問題)



一　高橋さんは、【報告する文章】で〈資料２〉と〈資料３〉を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の１から５までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

１　現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。
２　内容ごとに分類して示し、大まかな特ちょうを伝えるため。
３　年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
４　記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
５　説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

〈資料２〉……□
〈資料３〉……□

答解答は、解答用紙に書きましょう。

右の文章を読んで、資料の使用目的を問うています。

1

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いている【報告する文章】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告する文章】

公衆電話について

高橋　めぐみ

1　はじめに

先日外出したときに、家に電話をかけようと近くの店に行くと、あったはずの公衆電話がなくなっていて、こまってしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと思い、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが〈資料１〉です。平成二十年度からの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。

そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまったのかどうか調べてみることにしました。

2　調査の内容と結果

（１）公衆電話はどのようなときに必要なのか

多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。

そこで、地いきの人三十人を調査のアたいしょうとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが〈資料２〉です。

「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

（２）公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか

公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や特ちょうがありました。

・警察署（１１０番）や消防署（１１９番）には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができる。
・停電のときでも、硬貨を使って通話をすることができる。
・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。

このように、公衆電話は、さん急のときにも使うことができるということが分かりました。

（３）公衆電話はどのような場所にあるのか

公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが〈資料３〉です。

この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

3　調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまったわけではないと考えました。なぜなら、

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかということも考えました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にイかざらず多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもらいたいと思います。

（資料１）
公衆電話設置台数の移り変わり

（資料２）
公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

（資料３）
公衆電話の設置場所を示した地図

国立教育政策研究所、平成31年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について
(http://www.nier.go.jp/19chousa/pdf/19mondai_shou_kokugo.pdf)

・国語科における今後の授業で大切にしていきたいこと

○書くことに対する抵抗感を少なくするために、「文章を視写する」「文章の穴埋めをする」「型に当てはめて書く」等、子供の実態に応じた手立てをとりながら書く力を身に付けさせます。

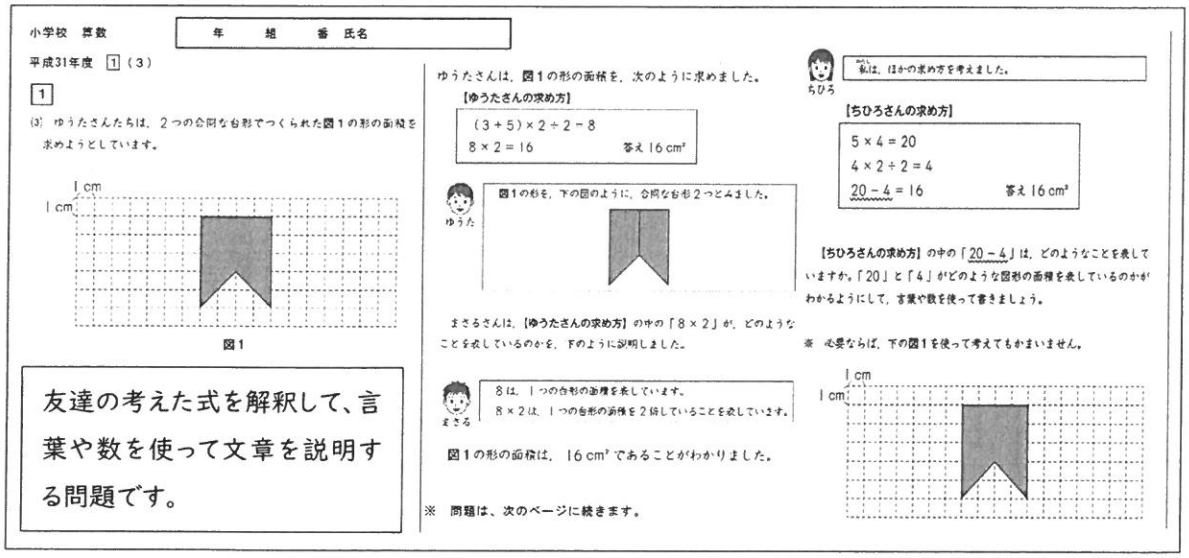
○国語科のみならず、各教科の学習においても理由(根拠)を明確にして自分の考えを書く活動を多く取り入れていきます。

○文章の中で正しい漢字を使うことが苦手な子供が多いので、ひらがなの文章を適切な漢字を使いながら書いたり、語彙力を付けるために語句調べに取り組んだりします。

○読解力をさらに向上させるために音読を継続するとともに、読書の習慣化のために毎月2回以上は図書室に行き本を借ります。

②算数科について

基本的な計算の技能やグラフを正確に読み取る力は概ね身に付いています。これは、宿題や朝学習等で繰り返し復習したことによる成果と考えられます。一方、計算の仕方を工夫したり、工夫に含まれる計算の仕方や面積の求め方を記述したりする数学的な考え方(思考力・判断力・表現力)に課題があることが分かりました。また、選択して答える問題や答えのみを書く短答式の正答率が高かった一方で、解き方や答えの根拠を説明する記述式の正答率は低い傾向にありました。(下の問題)


小学校　算数　　年　組　番　氏名

平成31年度 1 (3)

1

(3) ゆうたさんたちは，2つの合同な台形でつくられた図1の形の面積を求めようとしています。

1 cm
1 cm

図1

友達の考えた式を解釈して、言葉や数を使って文章を説明する問題です。

ゆうたさんは，図1の形の面積を，次のように求めました。

【ゆうたさんの求め方】

(3 + 5) × 2 ÷ 2 = 8
8 × 2 = 16　　答え 16 cm²

ゆうた：図1の形を，下の図のように，合同な台形2つとみました。

まさるさんは，【ゆうたさんの求め方】の中の「8 × 2」が，どのようなことを表しているのかを，下のように説明しました。

まさる：8は，1つの台形の面積を表しています。
8 × 2は，1つの台形の面積を2倍していることを表しています。

図1の形の面積は，16 cm² であることがわかりました。

※　問題は，次のページに続きます。

ちひろ：私は，ほかの求め方を考えました。

【ちひろさんの求め方】

5 × 4 = 20
4 × 2 ÷ 2 = 4
20 − 4 = 16　　答え 16 cm²

【ちひろさんの求め方】の中の「20 − 4」は，どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかがわかるようにして，言葉や数を使って書きましょう。

※　必要ならば，下の図1を使って考えてもかまいません。

1 cm
1 cm

国立教育政策研究所、平成31年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について

(http://www.nier.go.jp/19chousa/pdf/19mondai_shou_sansuu.pdf)

・算数科における今後の授業で大切にしていきたいこと

○授業の中で、自分の考えを式だけでなく文章で分かりやすく表現できるように、算数用語を使って書いたり、説明したりする場面を意図的に増やします。

○数量をイメージ化できるように具体物を操作する活動や図や線分図等を使って学習する場面を多く取り入れていきます。

○「算数の勉強が好きだ」「算数の勉強は大切だ」に課題が見られたので、子供たちが必要感をもって課題に取り組めるように日常生活の場面に置き換えて考えられる問題を提示し、子供たちが興味・関心をもって問題に取り組めるよう工夫します。

○今後も知識・技能を身に付けるために継続してドリル学習に取り組んだり、今回の調査で課題が見られた問題に類似した思考力を問う問題(県総合教育センターの「B 問題に挑戦」)を学習の中に取り入れたりしていきます。

2 児童質問紙の結果について

① 生活習慣・学習環境等に関して

○全国平均と比較して、よいところ

・毎日、朝食を食べ、同じくらいの時刻に寝ている。
・先生は、あなたのよいところを認めてくれている。授業で理解していないところを分かるまで教えてくれている。
・学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。
・学校に行くのは楽しいと思う。
・学校のきまりを守っている。

○全国平均と比較して、課題と考えられるところ(『当てはまる』が少ない項目)

・自分によいところがあると思う。
・将来の夢や目標をもっている。
・学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどのくらいの時間、勉強しますか。
・読書をしますか、新聞を読みますか。
・学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。

② 考察と今後の方策について

・今回の質問紙調査の大きな課題の一つに「学校の授業時間以外に、平日はどのくらいの時間、勉強しますか」という質問項目が挙げられます。これは学校以外における学習時間(学習塾や家庭教師の時間も含む)のことで、6年生は学校以外ではあまり学習していないことが分かりました。この結果から、今後6年生は学校以外での学習時間を増やしていくことで、学力を大きく伸ばすことができる可能性が高いということが明らかになりました。そこで、学校ではこれまでも指導してきた「学年×10 分」の家庭学習に取り組めるように授業と連動した内容の課題を出したり、自主学習ノート(こつこつノート)の内容の充実を図ったりすることで、家庭学習にも意欲的に取り組むことができるように努力していきます。

・早寝・早起き、朝ごはん等、きちんとした生活習慣が身に付いている子供が多いです。また「学校のきまりを守って、落ち着いて学校生活を送っている」「学校に行くのが楽しく、友達や先生と信頼関係を築くことができている」子供が多いことも分かりました。その一方で、自己肯定感が低く、将来の夢や目標をもっている子供が少ない傾向にあることが分かりました。そこで、今後は目標を設定し、努力したことで成功体験できる場を意図的に設定することで自己肯定感を高め、将来の夢や目標を明確にできるように取り組んでいきます。

・新聞を読んだり、進んで読書をしたりしている子供が少なかったです。全国的にも、新聞を「ほぼ毎日読む」と「読まない」では全ての科目で新聞を読む子供の方が正答率が高いという結果が出ています。今後も授業の中で新聞記事を活用したり、読書活動を推進したりし、活字に触れる機会を増やしていきます。

【保護者の方々に協力していただきたいこと】

先日、「人工知能時代における『子供の教育と共育』を脳科学する」というタイトルの講演会に参加しました。講演されていた方は、脳神経外科医の林成之先生（富山県出身）でした。講演の中で、「将来、子供の頭がよくなるために特別なことをする必要はなく、教育における5つのミッションを守ることで、学力も自己管理能力も向上します。ただし、習慣化する方法は、自分で考えて工夫していく必要があります。」と話されました。

教育における５つのミッション

①先生を好きになる。

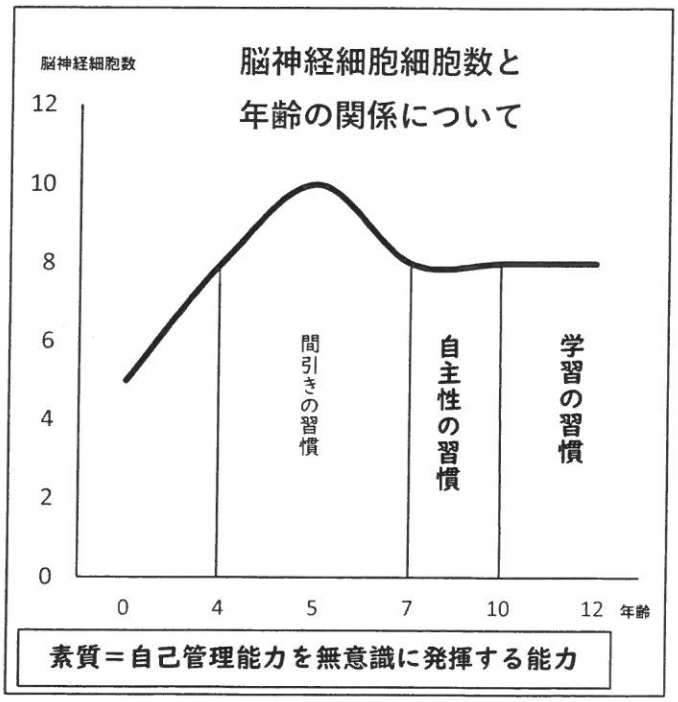
②勉強してからゲームをする。
③姿勢は文武両道を育む。
④気持ちを込めた会話で頭がよくなる。
⑤強い目標を立て、最後までやり遂げる。

ちなみに、①については、保護者の皆さんの力添えが必要です。お子さんの前では、どうか担任の先生をほめてください。どうか、先生を応援してください。きっと先生を好きになり、勉強も好きになり、学力も自己管理能力も向上すると思います。

また、右図の「脳神経細胞数と年齢の関係について」のグラフから見ると、**７歳から１０歳の時期は、少しずつ自主性を伸ばしていく必要があります。**効率を優先し、「ああしろ」「そうしろ」ばかりの子育てをしていると「言われた通りにした方がよいのか。それが賢いんだ。」と脳が思ってしまいます。できることを少しずつさせていくことが大切です。

そして、**１０歳以降は「学習の習慣化」によって脳の機能が高まり、学力の向上につながります。つまり、家庭学習や学校以外での学習習慣を身に付けることが大切になります。**

今回の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、これからの取組の方向性等について書きました。学年に関係なく、「うちの子供はどうなのかな？」と考える機会にしていただければ幸いです。



最後に、「AI（人工知能）」「超スマート社会（Society5.0）」等の言葉を最近よく耳にされると思います。これからの社会は科学の発展やグローバル化に伴い大きく変わろうとしています。そのため、知識だけではなく、予測不能な未知の状況にも対応できる**「思考力や表現力」**、チームの一員として働くために必要な**「コミュニケーション力」**、そして物事を**「最後まで粘り強くやり抜こうとする力」**等の育成が大切になってきます。

「学校でできること」、「家庭でできること」、それぞれ役割に違いはありますが、共に手を取り合い、協力・連携して未来を担う子供たちを大切に育てていきましょう。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。